

不幸な猫を増やさない活動

TNR 活動

野良猫の繁殖を抑え、飼い主のいない猫を増やさないことで、地域環境を改善。地域猫活動の柱となる活動です。

T Trap 》 捕まえる
捕獲器で安全に捕まえます。

N Neuter 》 不妊去勢手術
メスは不妊、オスは去勢手術をします。

R Return 》 元に戻す
手術後の猫を、元の場所に返します。

不妊・去勢手術費補助金

町では飼い主のいない猫への不妊・去勢手術費に対し、補助金を交付しています。

補助対象

四万十町内に生息する飼い主のいない猫

補助限度額

- ・オス1匹 10,000円(実費金額)
- ・メス1匹 15,000円(実費金額)

補助実績数

- ・令和5年度 … 93匹
- ・令和6年度 … 247匹

さくら耳とは

手術を受けた目印として、猫の耳先をV字型にカットしたものをいいます。

※申請する場合は事前に、環境水道課までご連絡ください。

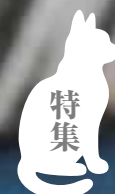


町の補助とボランティアの力で「増やさない」への挑戦

飼い主がいない猫であっても「動物愛護管理法」では、駆除や殺処分を目的とした猫の捕獲や捕獲した猫を別の場所に捨てる行為を禁じています。

そんな中、近年注目されているのが「TNR活動」と「地域猫活動」です。猫が繁殖しないよう不妊去勢手術を行い、元の場所に返すTNR活動。手術を受けた野良猫を、地域住民が主体となって育て、温かく見守る地域猫活動。

町内でも3つのボランティア団体が立ち上がり、不幸な命を増やさないために、TNR活動の支援などに尽力しています。また、町も令和5年度から飼い主のいない猫への不妊去勢手術費用の補助を開始するなど、町全体で飼い主のいない猫をこれ以上増やさない取り組みが始まっています。



ネコがしあわせに、ヒトがおだやかに。

「野良猫」から「地域猫」へ。 小さな手術に込めるやさしさ。

ご近所の猫問題、気になっていませんか。糞尿被害や鳴き声による地域トラブル、高齢化などによって突然飼い主を失った猫の存在など、今や猫問題は私たちの身近な地域課題となっています。そんな中、地域のために猫の不妊去勢手術を支援する活動が広がっています。

ただ猫を保護するだけでなく、「野良猫」を「地域猫」へとやさしく転換させ、猫も人も住みやすい地域へと変える地域猫活動。

小さな手術は『ネコがしあわせに、ヒトがおだやかに』暮らせる町づくりへとつながり、一代限りの命を全うする猫を、地域で温かく見送るやさしさへとつながっていきます。

猫問題は、今や身近な地域課題

「出ていくときは、猫が入るき戸閉めちよつてよ」。子どもの頃、母親によく言われた言葉。当時、地域にはそのくらい野良猫がいたということです。今でも猫よけとして庭先に置かれているペットボトルを見かけることがあります。猫は愛らしく、その姿に癒やされるといっても少なくないでしょう。一方で野良猫の糞尿や鳴き声に悩まされている方や、家庭菜園などを荒らされて困っている方がいるのも事実です。

こういった猫による被害は、時に生活環境を悪化させ、住民同士のトラブルを招くこともあります。今や地域の身近な課題にもなっています。

驚異の繁殖力が招く不幸の連鎖

猫は非常に繁殖率が高い動物で、メス猫は生後4か月頃から妊娠が可能です。年に2〜4回ほど出産し、1回の出産で2〜8匹の子猫を産みます。つまり1匹のメス猫から多いときは、年間20匹近く増える可能性があります。

また野良猫が増える背景には、身勝手な飼い主による猫の置き去り行為や、高齢の飼い主が亡くなったり、施設へ入所することで、ある日突然野良猫になってしまうケースも増えています。

野良猫は自分たちで餌場を探し、その驚異の繁殖力で増え続け、知らぬ間に誰も面倒を見きれない数にまで増えていきます。

この不幸の連鎖を食い止め、住民同士のトラブルを解決するためには「不妊去勢手術」が不可欠であり、それが最も効果的な手段なのです。



にじのはしスเปイクリニック
高知分院 [四万十市]
院長 尾首 陽子 さん

不幸な猫も、猫で困る人も減らしたい。 そのために不妊去勢手術は欠かせない。

今でも野外には飼い主のいない猫がたくさんいます。猫は繁殖力が高く、毎年野外でたくさん猫が生まれています。その多くは感染症や交通事故などによって命を落としています。こうした行き場のない猫を減らすためには「不妊去勢手術」が欠かせません。

しかし、地方には動物病院が少なく、不妊去勢手術を受けたくても、受けられない現実がありました。この「移動式手術室ニコワゴン」は、車という機動力をいかし、現地で大量の手術が可能です。

TNR活動には、住民の皆さんの理解が必要です。それがまた地域差があります。四万十町は、不妊去勢手術に対する町の補助も手厚く、住民と支援グループ、行政がうまく連携して活動している良い自治体の例だと思います。過酷な環境で暮らす猫たちを1匹でも減らし、増えた猫によって不快な思いをする人たちにも理解していただけるよう、これからもこの活動を続けていきたいです。

